

思い出すままに

福井憲二

年と共に惚けがひどくなり、記憶が臆になって終いましたので、事実と相違したことを述べるかもしれません。お許し下さい。

故武田ミキ学長の多年の念願であった小学校の女性教師養成をめざす初等教育学科の開設にあたり、その一年目の昭和五十五年四月、大学に勤めることになりました。学長室に挨拶に参り、色々とお話をして頂きました。その中に、謙虚で、豊かな人間味溢れる教師の育成という教育目標を伺いました。私が今まで専門分野の学問的探究のみを最優先に取り扱っていたことを深く反省させられたものです。

学園では役員会が月に二・三回開催されます。構成メンバーは学園全体から選出された十数人でありました。ここでは学園の管理・運営について議論をしていました。和氣藹々の内に会議は進行するのが通常でありましたが、時たま、故学長との意見の相違で激論となりました。この場合、相手の意見をよく聴かれ、自分自身で納得いくまでは中々譲歩されませんが、一度案が決まるとその実現のために献身的に努力をなされました。

或る夏、故学長は体調を損われ、会の開催が延期になったことがありました。夏休みも残り少なくなった時、召集がかかりまして学長室に行きますと、故学長は余程具合が悪かったのか、ソファに横になっておられました。しかしいざ開会となると、毅然と平素と変わらぬ態度に戻られました。この時、教育に生き教育に死する信念の持主の方だと、強く感銘を抱きました。

私立の大学は一部経営上の理由から所謂「マンモス大学」が多い中で、本学は少数精鋭主義をモットーに経営されていますので教育効果の上では理想的と思われれますが、学生に対する教員比が非常に高く、授業料等の収入に比べて、支出の負担が多くなり、大変な御苦労があるうと思いましたが、この事について語られることもなく、「収

## 一、大学人としてともに生きて

支のバランスが保たれ、赤字経営にならなければよい。」と申され教育者の取るべき態度を示されていました。

また、年に二・三回学科会が開かれ、該当する学科の教員と懇談されました。席上教員一人一人が各自の努力目標や抱負・意見を述べましたが、よくこれらを記憶されているし、要点を自身でメモをして整理され、次の会合の際にそれらの結果を尋ねられたものです。短期間の間に好ましい成果が得られる場合もありますが、十分な結果が出ない時があっても忍耐強く成果の挙がるのを期待されている様子が窺われました。

小学校教師は全教科担任が原則で、すべての教科にわたつての指導能力が必要であります。たとえ理科が苦手の人でも理科の教育を受けるわけですから、指導する立場の者は細心の注意と努力を払わねばなりません。開設当初は施設・設備は皆無に等しく、これの充実に全教員が努めたわけでありました。理科の教育では実験・観察を重点的に実行することが強く要望されます。そこで私は次の項目を考えました。

#### (1) 実験室の整備

(2) 必ず一人一人が実験に取り組めるようにして、基本的な技術を身につけさせる。

#### (3) 火災・危険防止

(4) 実験材料の準備は学生にさせる。

(5) 実験後の後始末も授業時間内に終わるように配慮する。

この中で(1)(2)を実施するには多額の施設費・経費を必要とするものです。故学長は「学生の教育のために必要なら」と、完成年度まで特別の予算をいただき、お陰で行き届いた教育ができたと思っています。(3)は各個人の心構え、(4)・(5)は時間割や授業時間の関係もあつて満足な成果が得られず、少々心残りであります。

一、大学人としてともに生きて

以上色々と思い出すままに述べてきましたが、六年間大きな過ちも無く勤務させていただけたのも故学長先生のお慈悲と教職員の理解による賜物と深く感謝しています。

終わりになりましたが、故学長先生のご冥福を心よりお祈りするとともに、大学の益々の発展を祈願致して止みません。